

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）乙第1750号	氏名	塚原 喜美雄
論文審査担当者		主査教授	相川 忠臣
		副査教授	澄川 耕二
		副査教授	江石 清行
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 先天性QT延長症候群（LQTS）では、QT間隔の延長のみならず心室筋の再分極過程の不均一性が特徴とされている。体表面電位図を利用し、LQTS例のQRST isointegral departure mapを作成し、再分極過程の不均一性の立体的な広がりと程度を明らかにしようとしたものであり研究の目的は妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価 体表面電位図で、QRST波と基線とで囲まれた部分の積分値が正常値からどの程度隔たっているか（departure index）を求め、QRST isointegral departure mapを作成した。運動負荷前後でdeparture map上の極点とdeparture indexの異常点の変化、及びdeparture indexの最大値最小値の部位の立体的なばらつきの変化とを検討したもので研究手法は妥当である。</p> <p>3. 解析・考察の評価 LQTS例に始めてQRST isointegral departure mapを応用してその有用性を明らかにしている。LQTSでは正常に比較して、運動負荷後に極点数と異常点総数が増加し、負荷後departure indexの絶対値が増大していた。負荷後のdeparture indexの最大値は右上前胸部と右背部に、最小値は左中～下前胸部と左中～下背部に正常より広い範囲で認められた。LQTS例では負荷により再分極異常の範囲が広がることを定量的に示し、かつ正常平均値からのdepartureの程度も大きくなることが明らかとなった。</p> <p>以上のように本論文は不整脈の診断と研究に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			

（注）報告番号は記入しないこと。